北越産業 Hokuetsu
第四のライン、タングステン複合リーダーを使いこなして感度アップ

第四のバーチカルライン 専用ラインシリーズ

◉高比重、高感度、高強度の素材「ポリアリレート」を採用した「第四のライン」に、魚種別、釣法別の専用ラインが発売されている。今回、大野さんが使用したのがカワハギ専用の0.9号。潮切れがよいので深場や速潮対策にも最適。もちろん伸びもほとんどないので感度アップに結びつく。

「まだまだ滑らかさ、結束、ラインケアに手間がかかるなどの問題点はありますが、カワハギマニアなら及第点をいただけるはず。価格も高比重ラインとしては安価です。初心者向きではないですが、使い分けの一つにはなると思います」と平野さん。

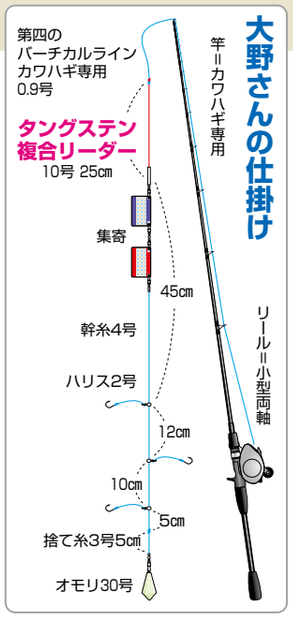
対象魚種	参考号数（号）	長さ（m）	カラー	税別価格（円）
チヌかかり専用	0.325	75	イエロー	1,980
		150	イエロー	2,980
イカメタル専用	0.425	150	イエロー	2,980
イカ専用	0.6	200	ホワイト	3,980
タイラバ専用	0.625	200	ホワイト	3,980
		400		6,980
カワハギ専用	0.7	150	ホワイト	3,380
	0.9	200	イエロー	3,980
フグ専用	1	200	ホワイト	3,980
LT専用	1.1	200	ホワイト	3,980
		400	ホワイト	6,980
ベイジギング専用	2	200	ホワイト	3,980
		400	ホワイト	6,980

※マーカーはありません。参考号数はPE対比。触った感じは太く感じますが、第四のラインは凹まないため、ゲージではなく、電子カメラベースで参考号数としています。結節部分には瞬間接着剤を利用してください。

▶幹糸に第四のボーダレスリーダー4号か、タングステン複合リーダー2号を使う人も

タングステン複合リーダー

◉大野さんがおすすめする感度アップ、もう一つの決め手がタングステン複合リーダーを仕掛け上部に加える方法。同製品最強の10号を25センチほど切り、結節した2カ所に瞬間接着剤を使って取り付けるだけ。ほとんど伸びのないラインを入れるだけで、カワハギの微弱なアタリがラインを通してタックルに伝わってくる優れもの。



▲剣崎沖は連日好調なだけに、平日でも大盛況

▲大野さんは中盤からペースアップ

▲北越元代表の平野和之さんも隣で竿を出した

▲小型は少ないので5枚も釣れば土産には十分

▲当日は20センチを超える良型がかなり交じった

あたりからの誘い下げ、オモリを底に置いてのゼロテン、もしくはややテンションを抜いてアタリを待つ釣り方。

一方の大橋さんはオモリを底から上げてアタリを待つ宙の釣りで、大野さんとは対照的。それぞれが最も得意とする、大会を制した釣り方でもある。

当日は北風が強く、潮も船尾に流れるトモ有利な展開。そろって前半はポツポツ状態で、サイズも今ひとつだ。それでもタナは底中心なのか、大野さんがややリードして前半戦を終えた。

釣り場を城ケ島沖水深30メートル前後に変え、後半戦に入る。すると今度は大橋さんが一荷釣りも見せるなど徐々にペースを上げていく。

アタリが途絶えた午後1時前、再び剣崎沖に戻ると、潮が変わって今度はミヨシ有利となる。こうなると2人の勢いは止まらない。

最後は宙のタナを探り当てた大橋さんがさらに勢いに乗り、26枚を（竿頭）釣ったところで納竿合図。大野さんは21枚だった。

「根がきくつ厳しい釣りを強いられましたが、感度のよさは確認できました」と大野さん。次回のステファーノグランプリが楽しみな表情でもあった。

★通い慣れた剣崎沖での釣行。仕掛け周りに感度アップの秘策が

★大野浩司さんは2019ステファーノグランプリ優勝のほか、幾多のカワハギ大会の入賞歴を持つファンには知られた名手の一人だ

ステファーノチャンプ、ある日のカワハギ釣行より 三浦半島剣崎松輪港出船
「第四のライン」を有効活用してカワハギ釣りをさらに感度アップ

◉2021年はコロナ禍でほとんどの釣り大会、イベントなどが中止。毎年恒例、カワハギ釣り全国大会のシマノステファーノグランプリも昨年に続き２度目の中止を余儀なくされた。一昨年のチャンプ大野浩司さんは予選シードの権利を得たまま次の大会を待ちかねている。そんな大野さんのある日の釣行に密着してみた。

▶偶然乗り合わせた2016ステファーノチャンプ大橋博さん。ホームでの釣りだけに、この日も安定の竿頭だった

◀道糸と仕掛けの間に「タングステン複合リーダー」10号を25センチ入れる。これだけで感度アップにつながる

▼道糸は「第四のバーチカルライン」カワハギ専用0.9号

「タイトルは獲るより守るほうが難しい」とは、頂点に立った者ならだれでも思っていること。これまでステファーノグランプリで連覇の記録はない。ディフェンディングチャンプとなる大野浩司さんはコロナ禍による2度延期の憂き目に遭いながらも、日々カワハギ釣りの研鑽（けんさん）を重ねている。

11月下旬に訪れたのは三浦半島剣崎松輪港の成銀丸。ところが、そこに偶然乗り合わせたのが２０１６ステファーノチャンプの大橋博さん。知り合い同士、左右ミヨシに分かれて座り、最近の状況や釣り方などの情報交換などを交わしているうち、７時半の出船時間を迎えた。

大野さんのタックル、仕掛けは図にあるとおり。一昨年との違いは道糸に「第四のバーチカルライン」、仕掛けの上部に「タングステン複合リーダー」を使用していること。

「伸びのないバーチカルラインは潮切れのよさが特長です。タングステン複合リーダーを使うことでさらなる感度アップが期待できます」と大野さん。

さっそく大橋さんが近くに寄ってきて興味津々の表情。同船した北越元代表平野和之さんがさっそく試供品を提供。

「次回の使用が楽しみです」と言う大橋さんが釣り座に戻ったところで、剣崎沖水深20メートル前後のポイントに到着し釣り開始となる。

大野さんの釣り方は底上1メートル

◉取材協力＝三浦半島剣崎松輪港　成銀丸 ☎046・886・1719（詳細は巻末の情報欄参照）